

第 20 回森林生産システム研究会の開催趣旨

近年、人工林資源の大径化にともない、架線系作業システムが再注目され、自動運転可能なタワーヤーダの普及・改良や、油圧式集材機の開発が進められています。こうした動きに応じて昨年の森林生産システム研究会では、十津川村役場様、十津川村森林組合様、住友林業(株)様のご協力により、奈良県十津川村村有林にて車載型タワーヤーダの見学とシンポジウムを行いました。交通の便が悪い場所にもかかわらず、全国から 150 人もの参加をいただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

上記のように架線系集材システムは大きな進化を続けており、年々、新たな機械が開発されているところですが、一方で林業機械の走行性能の進化、改良も進められ、進入可能な森林エリアも増えつつあります。特に、本年春の森林利用学会シンポジウム（札幌）でもいくつかの事例が報告され、その中ではウインチサポートによって 35 度の傾斜地においても運用していくという話も出てまいりました。斜面の状況次第では北海道以外の傾斜地でも適用しうるものに発展する可能性があります。適切な作業システムの選択のためには、今一度、林内走行の作業エリアがどのように拡大しつつあるか、その限界と課題について、整理が必要であると考えられます。

そこで今回の森林生産システム研究会では、平成 22 年度にホイール式ハーベスタ（SAMPO 社製 SR1046Pro）および 6 輪ホイール式フォワーダ（VIMEK 社製 608）が導入された長野森林組合様において、2 台の機械のみで搬出作業を行う CTL（Cut-to-Length）システムを見学させていただき、長年にわたり作業実績を積み重ねてきた中で明らかになってきた課題や、傾斜や土壌などの林地条件による CTL システムの限界、さらにはレーザー測量データ（LIDAR）を活用した作業システム選択の考え方などに関して解説していただき、林内走行による作業システムの方向性と将来の姿を展望してみたいと考えております。

また今回の研究会では、例年、共催していただいている森林利用学会の学生セミナーを前日から開催いたします。若い研究者の卵の力を、現場と乖離させず、意味のある実学研究に導くためにも、現地見学や懇親会、シンポジウム、休憩時間等の様々な機会に、若い学生を叱咤激励していただければ幸いです。学生の皆様もぜひ、学生セミナーと合わせての参加をご検討下さい。

<実演予定機械>

ハーベスタ SAMPO

フォワーダ VIMEK

フォワーダ IHI F801

ウインチ付グラップル コマツ PC55MR

プロセッサ イワフジ CT500

フォワーダ イワフジ U3BG

ウインチ付グラップル クボタ KX57-6

8 輪フォワーダ（ヨーロッパからの導入機種）

なお、従来は郵送での案内を希望される皆様に、郵便でもご案内させていただいておりましたが、事務経費及び作業軽減のため、今回より e-mail でののご案内のみにさせていただきます。郵送での案内文書が必要な場合は、別途郵送いたしますので、研究会主事の長谷川（hase*kais.kyoto-u.ac.jp、*は@に変更してお送り下さい）までお知らせ下さい。ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。